

ディスカッション

教員と学生、学生同士のディスカッションは様々な効果が期待できます。知識を正しく理解しているか確認ができます。また、多角的な視点から思考を深め、新たな関心が芽生えることもあります。表現する力や協同する力を養う訓練にもなりますが、効果的なディスカッションにするためには、事前準備やしかけ、段階に沿った工夫が必要になります。

科目名：国際森林科学論

担当者：大久保達弘 先生（農学部） 他

これまでの授業のまとめとして、テーマ別のグループに分かれディスカッションを行いました。テーマやグループは「マグネットテーブル」という手法で決めました。



- ①各自A4用紙にこれまでの講義で最も関心を持ったテーマと理由を大きく記入する。
- ②隣の席の学生とペアになり各自のテーマを紹介し合い、質問をし合うことでテーマに対する考えを深める。
- ③テーマを記入した用紙を掲げて教室を歩き回り見せ合います。そこで似ているテーマを持っている学生同士で集まりグループで着席する。
- ④グループで1つのテーマに設定し、解決策についてディスカッションする。

ディスカッションのテーマやグループの決め方は様々な方法がありますが、この手法を用いることで、学生一人ひとりが主体的に考えることができ、よりスムーズにディスカッションに入ることができていたようです。